

News Letter

第19回全国大会予告号

経営行動研究学会会報

2009年5月

第64号

第19回全国大会開催にあたって

大会実行委員長 櫻井 克彦 (東海学園大学)

若葉の緑も日増しに濃くなって参りました。会員の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます

経営行動研究学会第19回全国大会が、8月1日(土)、2日(日)に東海学園大学三好キャンパスで開催されることになりました。既にご案内のように、今回の統一論題報告のテーマは、「CSRと経営行動—企業とNPO—」です。CSRは今までも本学会でたびたび議論されてきていますが、本大会ではCSRを報告テーマとして正面から取り上げます。統一論題報告では、本テーマについて研究の分野において、あるいは実践の領域において長い経験と優れた実績を有する方々5名に報告をお願いしており、セルフ・ガバナンス、生産コストマネジメント、コミュニティビジネス経営、企業観、監査役監査といった切り口から発表が行われます。CSRへの関心が諸方面でかつてないほど高まっている今日、それぞれご専門の立場からCSRについて報告して頂くことは、まことに時宜に合うことと考えます。また、統一論題についてはシンポジウムも開かれます。自由論題報告では、18名の方々の報告があります。CSRを含む多様なテーマのもとに日頃の研究がそれぞれの報告者によって発表されます。本大会が活発な論議が展開され、実りある研究大会となることを期待しております。

東海学園大学は、明治21(1888)年創設の浄土宗学愛知志校をルーツとする学校法人東海学園に属しております。東海学園は東海学園大学のほかに東海中学・東海高校、東海学園高校をもち、校訓「勤儉誠実」のもと「ともいき(共生)」の教えを推し進めてきました。東海学園大学はいま、名古屋市天白区(名古屋キャンパス)、愛知県西加茂郡三好町(三好キャンパス)、および名古屋市中区(栄サテライト)に立地し、大学院経営学研究科と大学3学部(経営学部、人文学部、人間健康学部 計5学科)を設けております。大会会場の三好キャンパスは名古屋市と豊田市の間にあり、名古屋駅から地下鉄で約45分(東山線藤が丘行に乗車。次駅の伏見で鶴舞線豊田市行に乗換え、三好ヶ丘駅下車)、あと徒歩で十数分のところですが、都心からは離れており、アクセス面でご迷惑をおかけいたします。また、経営行動研究学会所属の本学会員も少なく、大会運営の上で何かと不行き届きの点があるかと存じますが、学園・大学の支援で充実した大会にいたすべく努力しておりますので、どうぞご参加賜りますようお願い申し上げます。

時節柄、会員の皆様にはご自愛の程お祈り申し上げますとともに、三好の地で皆様にお会いできますことを楽しみにしております。

経営行動研究学会第19回全国大会プログラム

統一論題：「CSRと経営行動 — 企業とNPO—」

日 時：2009年8月1日(土), 2日(日)

開催会場：東海学園大学 三好キャンパス 3号館
愛知県西加茂郡三好町福谷西ノ洞 21-233

大会実行委員長 櫻井 克彦

副委員長 堀田 友三郎

◆8月1日(土)9:30 受付開始 3号館 1階ロビー

自由論題報告 (報告 30分 コメント・質疑 15分)

<自由論題(I) 10:00~10:45>

	A会場(312教室)	B会場(325教室)	C会場(326教室)
テ — マ	「法令順守の有効性を高める独立変数の考察—X社の事例をもとにした可視化モデルと検証—」	「自治体職員(非常勤)にとってのワーク・ライフ・バランス—質的調査による生活観の解明—」	「コーポレート・ベンチャー・キャピタルの成功要件に関する研究」
報 告 者	渡辺研次 (立教大学大学院)	永井隆雄(九州大学大学院) 和田恵美子(東京大学) 吉田康志(中央大学大学院)	清水健太(東洋大学大学院)
コメンテータ	山口善昭(東京富士大学)	加藤 修(みずほ情報総研)	飛田幸宏(白鷗大学)
司 会 者	津田秀和(愛知学院大学)	岩井清治(桜美林大学)	井上善海(広島大学)

<自由論題(II) 10:50~11:35>

テ — マ	「企業不動産の汚染発覚と株価反応—土壤汚染問題を中心に—」	「行政と民間セクターとの新しい協働」	「我が国における損害保険の募集構造—代理店からのアプローチ—」
報 告 者	山本 卓 (財)日本不動産研究所)	岩切道雄(宮崎県県民政策部)	大塚武敏 (千葉商科大学大学院)
コメンテータ	石崎忠司(中央大学)	堀越芳昭(山梨学院大学)	日野隆生(大阪国際大学)
司 会 者	石山伍夫(日本大学)	渡辺基之(東京国際大学)	服部 治(松蔭大学)

昼 食 11:35~12:30

<自由論題(III) 12:30~13:15>

テ — マ	「企業の社会的責任に関する—考察—企業の持続可能な発展のために—」	「税理士アンケート調査から見た中小企業会計の実態」	「金融市場の有効性を担保するためのファイナンスに関する—考察—」
報 告 者	小堀朋子(千葉商科大学経済研究所)	沼 恵一(淑徳大学)	亀谷祥治(日本大学)
コメンテータ	水谷内徹也(富山大学)	市野初芳(愛知学院大学)	村上 睦(大阪学院大学)
司 会 者	亀川雅人(立教大学)	増田卓司((前)九州共立大学)	永井四郎(麗澤大学)

<自由論題(Ⅳ) 13:20~14:05>

テ	【研究プロジェクト】 「鉄道会社における資金調達とコーポレート・ガバナンス—JR西日本を事例として—」	「技術革新を伴う新製品の開発前段階における情報収集活動マネジメント—情報収集活動と技術革新新製品の関係分析—」	「金融危機と東アジアの産業構造」
マ			
報	関岡保二(中央学院大学) 日隈信夫(日本大学)	櫻井 敬三(日本大学)	山中 高光(花園大学)
告			
者			
コ	山田 仁志(淑徳大学)	金子 勝一(山梨学院大学)	竹野忠弘(名古屋工業大学)
メ			
ン			
テ			
ー			
タ	樋口 和彦(白鷗大学)	浅井 紀子(中京大学)	丹野 勲(神奈川大学)
司			
会			
者			

統一論題報告 統一テーマ:『CSRと経営行動 — 企業とNPO—』

3号館 大講義室(報告 40分・質疑 5分)

<統一論題Ⅰ 14:10~14:55>

テーマ: 「自律的(セルフ)ガバナンスの論点整理
— 日本における内部統制制度をめぐる—」

報告者: 市古 勲(東海学園大学)

司会者: 齋藤 貞之(北九州市立大学)

<統一論題Ⅱ 15:00~15:45>

テーマ: 「CSRに結実する生産コストマネジメント」

報告者: 中島 道靖 (関西大学)

司会者: 長谷川 恵一(早稲田大学)

<統一論題Ⅲ 15:50~16:35>

テーマ: 「新たな価値創造—コミュニティビジネス経営の可能性と課題」

報告者: 関戸 美恵子(特定非営利活動法人 起業支援ネット)

司会者: 堀田 友三郎(東海学園大学)

会員総会 16:40~17:20 3号館 大講義室

懇親会 18:30~20:00 サーウインストンホテル 宴会場(八事駅1番出口より直結)

◆ 8月2日(日) 9:00 受付開始 3号館 1階ロビー ◆

<自由論題(Ⅴ) 9:30~10:15>(報告 30分 コメント・質疑 15分)

(3号館)	A会場(312教室)	B会場(325教室)	C会場(326教室)			
テ	「経営理念の浸透をもたらすエンタープライズ・リスクマネジメントに関する研究—同族経営中小企業の間管理職に着目して—」	「キャッシュ・フロー情報開示の展開」	「ベトナムにおけるジェンダー・ダイバーシティ—ハノイの現地企業と外資系企業に違いはあるのか—」			
マ						
報				瀬戸正則(広島大学大学院)	遠藤秀紀(東海学園大学)	加藤里美(朝日大学)
告						
者						
コ	小室達章(金城学院大学)	岩崎 功(和光大学)	黄 八洙(駐日韓国大使館)			
メ						
ン						
テ						
ー						
タ						
司	太田三郎(千葉商科大学)	城川俊一(東洋大学)	鈴木岩行(和光大学)			
会						
者						

<自由論題(VI) 10:20~11:05>

テ ー マ	「ERM実践手法に関する研究」	「TFP成長率にみる建設産業の効率性と企業間格差」	「わが国産業経済団体の役割と組織—原子力工業および電子工業を中心に—」
報 告 者	洪 聖協(財日本生産性本部)	登坂敏晴 (麗澤大学大学院)	小藤 計 (21世紀経済研究所)
コメンテータ	齋藤 淳(LEC 会計大学院)	大西幹弘(名城大学)	吹田 尚一 (社)日本経済復興協会)
司 会 者	新川 本(長崎県立大学)	金子逸郎(明治大学)	三浦 康彦(アントレラボ ワイエム経営)

統一論題報告 3号館 大講義室 (報告 40分・質疑 5分)

<統一論題IV 11:10~11:55>

テーマ: 「CSRと企業観」

報告者: 勝部 伸夫(熊本学園大学)

司会者: 平田 光弘(星城大学・一橋大学)

<統一論題V 12:00~12:45>

テーマ: 「CSR経営を支える監査役監査のあり方」

報告者: 徳谷 昌勇(早稲田大学・東京農業大学)

司会者: 渡部 直樹(慶應義塾大学)

昼食休憩 (12:45~13:45)

シンポジウム 13:45~15:30 3号館 大講義室

統一論題シンポジウム「CSRと経営行動 — 企業とNPO—」

パネリスト : 市古 勲(東海学園大学)

中島 道靖(関西大学)

勝部 伸夫(熊本学園大学)

徳谷 昌勇(早稲田大学・東京農業大学)

司会者 : 櫻井 克彦(東海学園大学)

二神 恭一(早稲田大学)

●参加費等

	事前振込	当日払い
大会参加費	5,000円	5,500円
懇親会費	6,000円	6,500円
昼食弁当(1食当たり)	1,000円	事前申込みのみ

※ 大学院生の大会参加費は3,000円、懇親会費は6,000円とします。

※ 事前振込みの方は念のため、当日振替受領証またはコピーをご持参ください。

[振込口座] 郵便振替: 口座番号 00870-4-135194

口座名 経営行動研究学会 第19回全国大会実行委員会 **振替期日: 7月17日(金)**

※詳細については別途郵便にてご案内いたしておりますので、ご確認ください。

第22回日中企業管理シンポジウムならび

第9回日本・モンゴル国際シンポジウムのお知らせ

国際委員会

「第22回日中企業管理シンポジウム」が、中国（北京）の清華大学と中国国務院発展研究センターの後援を得て、8月12日～16日に開催され、「第9回日本・モンゴル国際シンポジウム」がウランバートルのモンゴル国立科学技術大学において開催されます。両シンポジウムのプログラムは次のとおりです。

◆第22回日中企業管理シンポジウム：経営行動研究学会・中国企業連合会 共催

（後援：中国 国務院発展研究センター・清華大学）

開催場所：中国・北京市：清華大学

北京市海淀区清華大学 〒：100084 TEL.010-8610-62785001

宿泊場所：京融金国際酒店(5つ星) Royal King Hotel Beijing

住所：中国北京 海淀区北四西路甲2号 〒：100190

電話：8610-6258-9999 FAX：010-8255-0007

2009年8月13日・14日（8/12-8/16）中国北京・清華大学 経済管理学院

統一テーマ「東方管理思想における企業近代化の実践」

【日本側報告者】

1. 「日本企業の経営管理とその思想—伝統的経営慣行と新動向—」

報告者：菊池 敏夫（経営行動研究学会会長）

司会者：櫻井 清（和光大学名誉教授）

2. 「東洋・西洋の管理思想の融合」

報告者：厚東 偉介（早稲田大学教授）

司会者：城川 俊一（東洋大学教授）

3. 「日本企業のガバナンスと経営理念」

報告者：佐久間 信夫（創価大学教授）

司会者：金山 権（桜美林大学教授）

4. 「ポスト新自由主義の東方管理思想」

報告者：高橋 公夫（関東学院大学教授）

司会者：丹野 勲（神奈川大学教授）

5. 「野村徳七の経営理念と企業倫理—野村証券の創業の理念」

報告者：野村 千佳子（山梨学院大学准教授）

司会者：関岡 保二（中央学院大学准教授）

◆経営行動研究学会・モンゴル経済ビジネス連合 共催

第9回日本・モンゴル国際シンポジウム 2009年8月17日（月）・18日（火）

ウランバートル・国立科学技術大学

(Mongolian University of Science and Technology (MUST),)

住所：Khan-Uul district, 3rd Khoroo, Chingis Hkaan avenue, Ulanbaatar-36

宿泊先：FLOWER HOTEL Bayanzurkh District Zaluuchuudii Avenue-18
Sansar microdistrict Ulaanbaatar-49. Mongolia
Tel: 010-976-011-458330 Fax:010-976-011-455652
東京連絡事務所 Tel: 03-3444-2211 Fax: 03-3444-9014

統一テーマ「国際化と経済危機の中で—政策と企業行動—」

【日本側報告者】

1. 「グローバリゼーションとCSR」
報告者：櫻井 克彦（東海学園大学教授）
司会者：三浦 康彦（アントレラボ ワイエム経営代表）
2. 「日本の医療政策と病院経営の課題」
報告者：坂田 壽衛（日本大学大学院グローバルビジネス研究科教授）
司会者：宗岡 広太郎（(株)日立製作所 顧問）
3. 「グローバル資本主義とトービntax」
報告者：村上 睦（大阪学院大学教授）
司会者：長谷川 恵一（早稲田大学教授）
4. 「若年者雇用環境の変化と人材育成—日・独・比較—」
報告者：岩井 清治（桜美林大学教授）
司会者：岩崎 功（和光大学教授）
5. 「日本におけるコーポレート・ガバナンスの状況と課題
—大企業・中堅企業の調査結果を中心として—」
報告者：飯島 寛一（中央学院大学教授）
司会者：高垣 行男（駿河台大学教授）

【モンゴル側の報告者】

1. Bat, ウランバートル市役員
2. P. Ochirbat, B. Davaasuren, G. Bathurel 共同研究（国立科学技術大学）
3. Hijaba Ykhanbai, Prof. Dr. Head of the Department of Policy and Planning, Ministry of Nature and Environment
4. Ayurzana モンゴル国立大学
5. 「共同研究：SIMULATION ANALYSIS OF A MINING PROJECT :
鉄鉱石採掘・生産プロジェクトのシミュレーション分析」
高桑宗右エ門（Soemon Takakuwa）（名古屋大学教授）
Chinbatiin Undram（チンバット・ウンドラム）名古屋大学大学院生

研 究 部 会 報 告

○第71回研究部会・2009年4月11日（土）於 日本大学経済学部7号館

●テーマ「WTO体制下における地域貿易協定—GATT第24条の分析—」報告者：堀内博氏（日本大学大学院）、司会・コメント：飯島 寛一氏（中央学院大学）

堀内氏の報告は、現在の世界貿易機構でのWTOとRTAとの問題点の検討である。RTAは、GATT第24条の例外規定として許容されている。現在の世界経済においては、多くのRTAが締結され、今なお拡大基調にある。それに反してWTOにおけるいわゆるドーハ・ラウンドは、決裂状態である。GATT第24条の本来の意図は、世界的な自由貿易網の確立である。それにも拘らず、この現状は、それに対する矛盾としか言いようがない。原因は、RTAを締結する際の諸条件の認識および運用の曖昧さにある。特に授権条項に基づくFTA協定は、不透明感を漂わせている。この実体が国際貿易において不公正さを増長させているのではないかという。堀内氏の報告は、WTOとRTAとの矛盾点を明確に浮き彫りにしていると同時に、現代世界貿易機構における弱点を明確にし、なおかつ将来への課題を指摘している。極めて詳細綿密な分析で高く評価されるところであろう。

堀内氏には、願わくば、さらに、もう一步踏み込んで、なぜWTOでは、ドーハ・ラウンドが暗礁に乗り上げ、その一方でRTAが進行しているのかの根本的原因についての考察を希望したいところである。WTOか、あるいはRTAが本質的動向であるのか否かの判断は、重要であろう。世界経済の本質的動向が形成されるなら、その実態と秩序の上部にいかなる観念が形成され、そして、それら各要素の同一性がなされ、そこから全体性への展開が叶うのかどうか興味あるところである。(飯島寛一 記)

●**テーマ：「企業価値と暖簾」** 報告者：矢部 健太郎氏（千葉商科大学大学院），司会・コメント：田中 建二氏（明治大学）

世界的な金余りを背景に投資ファンドが暗躍する現代にあっては、企業も投機の対象となり、投機価格としての株価は企業の実体価値から大きく乖離することになる。本報告は、このような企業の実体価値と株価との乖離現象を、「差額としての暖簾」という概念をキーワードとして用いて、批判的に分析しようとしたものである。

企業の長期的な成長を支援するよりもむしろ短期的な売買により利益を荒稼ぎしようとする現在の風潮に対して、厳しく批判的に論じようとする意欲溢れる報告ではあったが、やや意欲が空回りしてしまった面も否めない。今後は、具体的な事例やデータ等に基づいた、より冷静な分析が望まれよう。(田中建二 記)

● **テーマ：「従業員満足と攻めのERM—HRMから見る人的リスクマネジメント」** 報告者：岩出 博氏（日本大学），司会・コメント：洪 聖協氏（(財)日本生産性本部）

本報告は、HRMにおけるERM(enterprise risk management)のフレームワークの提示である。すなわち、従来のRM(risk management)の1つであるHRMリスクマネジメント（個別リスクマネジメント、守りのリスクマネジメント）から、新規事業分野進出など企業経営にプラスの影響を与える「攻めのRM」を含む内容としてのERMの枠組を明確にしている。

両者のリスクは、人が引き起こす人的リスクであり、その発生の原因には、①従業員不満を抑えるリスク（企業業績の悪化を防ぐ、守りのRM）、②従業員満足を高めるリスク（企業業績の向上を導く、攻めのRM）がある。一方、HRMにおける従業員満足は①生活満足、②職場満足、③職務満足、④企業満足があり、従業員満足であり、人的リスクマネジメントのフレームとして、ハーズバークの「動機づけ—衛生理論」と「企業市民」の概念を用いている。結論的には、従業員不満を抑える守りのリスクは労働コンプライアンスであり、従業員満足を高める攻めのリスクは労働CSRであるというフレックを提示している。前者は守りのリスクマネジメントとして規定し、後者は攻めのリスクマネジメントとして規定している。本報告は、HRM分野におけるERMのフレックワークの新たな学問的方向性を提供している。(洪 聖協 記)

今後の部会開催予定

経営行動研究学会第24回中部部会(経営哲学学会中部部会と合同開催)

日時：平成21年6月13日(土) 13:30～ ・参加費 500円

場所：東海学園大学大学院栄サテライトキャンパス

〒460-0011 名古屋市中区大須4-1-21 久屋南KTビル9F

TEL 052-251-6321 (代) (地下鉄名城線『矢場町』駅4番出口, 南へ200m)

プログラム

研究報告 (報告35分・コメント10分・質疑15分)

(1) 「「経営自主体」論の観点に基づくCSR—その課題と展望—(仮題)」

報告者：愛知産業大学 小野 琢 氏

司会・コメンテーター：東海学園大学 櫻井 克彦 氏

(2) 「キャッシュ・フロー情報開示の展開—資金概念の形成過程を中心として—」

報告者：東海学園大学 遠藤 秀紀 氏

司会・コメンテーター：愛知学院大学 平賀 正剛 氏

(3) 「ベトナムにおける女性活用(仮題)」

報告者：朝日大学 加藤 里美 氏

司会・コメンテーター：中部大学 寺澤 朝子 氏

今回は、本年12月に中京大学で開催の予定。

経営行動研究学会中部部会部会長 櫻井 克彦 (東海学園大学)

※ 中部部会事務局では報告希望を随時、受け付けています。

連絡先は〒470-0207 愛知県西加茂郡三好町福谷西ノ洞21-233 東海学園大学経営学部
市古 勲 (TEL:0561-36-5555, FAX:0561-36-6757, E-mail:ichiko@tokaigakuen-u.ac.jp) です。

第72回研究部会開催

日時：2009年6月20日(土) 午後1時30分より 時間厳守(報告40分 質疑20分)

会場： 明治大学 研究棟, 2階 第9会議室

(東京都千代田区神田駿河台1-6-1 Tel. 03-3296-4034)

【交通機関】 [JR線] 中央線・総武線 ・御茶の水駅下車…徒歩2分

[地下鉄] 千代田線・新御茶の水駅下車…徒歩4分, 丸の内線・新お茶の水駅下車…徒歩4分

参加費：500円

※報告者の都合により報告順が次の通り変更となりました。

(1) 13:30～14:30

テーマ：「在中日系製造業企業における成果主義の導入と人材現地化—現地調査を踏まえて—」

報告者：徐 雄彬 氏 (桜美林大学大学院博士後期課程)

司会・コメンテーター：鈴木 岩行 氏 (和光大学教授)

(2) 14 : 35～15 : 35

テーマ：「北イタリアの産業クラスター—ストラディヴァリの生誕地クレモナー」

報告者：大木 裕子 氏（京都産業大学准教授）

司会・コメンテータ：厚東 偉介 氏（早稲田大学教授）

(3) 15 : 50～16 : 50

テーマ：「ベトナム企業における組織特性の実証研究」

報告者：清水 洋一 氏（高千穂大学大学院博士後期課程満期退学・東京都世田谷区喜多見小学校）

司会・コメンテータ：岩井 清治 氏（桜美林大学教授）

●第 73 回研究部会：7 2 回研究部会案内状において、10 月 10 日（土）の開催日程でご案内しておりましたが、開催校の都合により 10 月 3 日（土）早稲田大学にて開催と変更になりましたのでお知らせいたします。

●第 25 回中部部会は 12 月 12 日（土）に中部地区で開催予定。

理事会報告

2009 年 4 月 1 1 日（土）午後 12 時～13 時、日本大学経済学部 7 号館 13 階 第 3 会議室

議題①第 19 回全国大会について、大会期日 2009 年 8 月 1 日（土）、2 日（日）の日程確認およびスケジュール、プログラム案の説明が開催校大会実行委員長櫻井克彦氏、副委員長堀田友三郎氏よりなされ承認された。②国際シンポジウムについて、第 22 回日中企業管理シンポジウムの報告者ならびに報告テーマの説明がなされた。第 9 回モンゴル国際シンポジウムについて日本側報告者および報告テーマの説明がありモンゴルでのスケジュールについて説明がなされ承認された。③個人会員 5 名（別記）の入会、3 名の退会が承認された。④その他において、会長より経営関連学会協議会の役員改選により新理事長（奥林康司氏）、副理事長（舩富順久氏）が決まった旨の報告があった。

◆新刊書（学会会員著）紹介◆

- ・日本経営教育学会創立 30 周年記念出版『講座/経営教育² 経営者論』編集代表 小椋康宏、日本経営教育学会編、中央経済社、2009 年 4 月 20 日発行、321 頁。
- ・現代社会を読む経営学⁵『コーポレート・ガバナンスと経営学—グローバル化下の変化と多様性—』海道ノブチカ・風間信隆編著、出見世信之（第 8 章）、金山 権（第 11 章）、ミネルヴァ書房、2009 年 4 月 25 日発行、245 頁、定価 2,800 円（税別）。
- ・『ステークホルダーの経営学—開かれた社会の到来』、大平浩二編著、菊澤研宗（第 II 部 3）、渡部直樹（第 II 部 9）、董光哲（第 II 部 13）、中央経済社、2009 年 5 月 25 日発行、311 頁、定価 3,200 円（税別）。
- ・『ファイナンシャル・マネジメント—企業価値評価の意味と限界—』亀川雅人著、学文社、2009 年 5 月 30 日発行、217 頁、定価 2,300 円（税別）。

委員会だより

※役員改選推薦委員会からのお知らせ※

* 4 月 1 1 日に開催された学会理事会において、本年の役員改選を従来からの「推薦委員会」による方法で行うことが承認されました。また、今回から従来の推薦方法に加えて一

般会員からの理事推薦を受け付けることになりました。学会理事に推薦したい方がございましたら、どうぞ推薦用紙(様式自由)に推薦理由を記入して推薦委員会までお送り下さるようお願い致します(7月10日まで)。推薦委員会において取り上げさせていただきます。

研究委員会 部会報告の募集について……本人申込み・推薦いずれかにより、それぞれ所定の用紙(申込み用紙は学会事務局にあります)に記入のうえ、学会事務局に開催予定日の3ヶ月前までに送付する。応募多数の場合は、研究委員会の審議を経て決定します。なお、部会開催についてご協力を頂けます大学がありましたら、事務局までご連絡申込みくださいますようお願いいたします。

新入個人会員紹介

氏名	所属機関・職名	専門
遠藤 秀紀	東海学園大学	会計学
小倉 賢治	立教大学大学院	国際経営, 戦略論・組織論
黄 暁超	桜美林大学大学院	環境経営
島田 裕司	日本大学大学院	労務管理論・中小企業経営論
清水 洋一	東京都世田谷区小学校教諭	経営管理論

(訃報)

本学会会員の小野崎恒夫氏(流通経済大学教授)は、入院加療中のところ2009年4月19日に逝去されました。享年60歳。ここに慎んでお報せ申し上げ、会員の皆様とともに故人のご冥福をお祈りいたします。

【住所・所属等変更の連絡方法について】

会員各位の自宅のご住所・電話番号・所属機関の名称・所在・電話番号・職名等について変更の生じた場合には、変更前と変更後を並記のうえ、必ず文書(電子メール可)にて事務局宛にご連絡ください。

発行 経営行動研究学会 東京都千代田区飯田橋4-4-8 東京中央ビル7F707号 〒102-0072
経営行動研究所内 TEL. 03-3263-2586 FAX. 03-3263-4466
e-mail: jarbab@alpha.ocn.ne.jp /http://www.soc.nii.ac.jp/jam/
2009年5月30日発行 印刷 株式会社 櫻 栄 TEL. 03-3288-5571